

# ぷちまる

登録番号：第10379号

登録年月日：平成14年7月10日

登録者：(独)農業・生物系特定産業  
技術研究機構

育成者：吉田俊雄 根角博久 吉岡  
照高 家城洋之 伊藤祐司  
野々村睦子 上野 勇 山

田彬雄 村瀬昭治 瀧下文孝

来歴：ナガミキンカンと4倍体ニン

ボウキンカンの交雑実生

育成地：静岡県静岡市清水興津 ((独)

農業・生物系特定産業技術研  
究機構果樹研究所カンキツ研  
究部興津)

## 特性

### ■栽培特性

カラタチ台の木の樹勢は中庸であるが、キンカンとしてはやや強めである。樹姿は直立性と開張性の中間で、枝がやや密生する。短いとげが少しみられるが、樹勢が落ち着けば発生しなくなる。葉は小さく、ニンボウキンカンよりやや厚い。花は他のキンカンと同様に7月から8月にかけて、10日位の間隔で3～4回順次開花する。結実性は良好であるが、ニンボウキンカンと同様に年により1番花の着果が少ないことがある。

### ■果実特性

果実は育成地(静岡県静岡市)では平均11g位で、ニンボウキンカンとほぼ同じである。沖縄県等の暖地や施設栽培では20gに達する。果形は長球形で、ニンボウキンカンとほぼ同じかやや長い。果皮は濃い橙色で果面は滑らかである。ニンボウキンカンに比べて油胞がやや大きく目立つが、その分布は疎である。1番果の果皮の着色開始は11月上、中旬で、完全着色は1月である。果皮の厚さは4mm内外で、ニンボウキンカンに比べてアルベドが厚く、果皮歩合が高い。果皮の硬さはニンボウキンカンと同程度でやや硬い。果肉は橙色で軟らかである。さじょうは極く小さく、その発達はやや悪い。そのため果汁量はやや少ないが、アルベド部分にも水分があり、食べた時の感じは特に問題はない。果皮の甘味は強く、苦味はない。キンカンは果実の中心部が酸っぱいが、この品種は中心部の酸味が少なく、果皮ごと食べる味はニンボウキンカンより優れている。1番果の成熟期は1月で、以後順次開花の遅い果実が成熟する。本品種は3倍体であるので、完全種子は平均0.3粒程度でほとんど無いが、しいなが1～2粒ある。しいなは果皮と同程度の硬さであるので、食べた時に特に問題はなく、食べやすい点が本品種の特長である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

かいよう病には抵抗性があり、そうか病にもかなり強く、また、カンキツトリステザウイルスによる木の衰弱は認められていないので、栽培は容易である。

開花期の早い果実は肥大が良く、成熟期も早いので、1～2番花の結実を確保することが重要である。結実を良くするには春枝の伸長、充実を図るとともに、開花期から幼果期にかけての高温乾燥期には草薙、灌水等を行い、圃地の乾燥を防ぐ。施設栽培では開花期前後の温度管理に注意する。樹冠の拡大が遅いので、栽植密度を高くして初期収量の確保を図る。シクワシャー台の樹はカラタチ台の樹に比べて樹勢が旺盛で、樹冠の拡大が早く、1樹当たりの収量が多いので、台木の選択についても検討する必要がある。

### ■地域適応性

キンカンはもともと果実が小さいので、大玉果の生産が望まれる。また、果実が霜に遭遇すると品質の低下と減収につながる。そのため、秋から冬にかけて温暖で、果実肥大の良好な沖縄県等の暖地での栽培や施設栽培に適する。また、栽培しやすく、味が良く食べやすいので家庭用果樹としても適している。

(吉田俊雄)